

# Senriyama

## 千里山建築会会報

第 26 号 Ver.2 2016 年 3 月 18 日発行

### 千里山建築会

〒 564-8680 大阪府吹田市山手町 3-3-35

関西大学環境都市工学部建築学科内

TEL : 06(6368)1121 (代表)

FAX : 06(6368)0093 (建築学科共通)

### Contents

副会長挨拶	(井上寿也)	1	事務局から		
建築学科の近況			会計・事業報告		6
教室だより	(伊藤淳志)	2	お知らせ		6
着任の御挨拶	(大影佳史)	3	編集後記		6
退職にあたって	(鈴木三四郎)	3			
建築学科 50 周年	(鈴木三四郎)	4			
千里山キャンパス NOW	(市原 淳)	5			

## 副会長挨拶

井上寿也 (20 期)



井上寿也 副会長

皆様、副会長の 20 期井上です。前期から引き続き副会長に就任させて頂きました。

私は、浅野幸一郎先生のご指導の下、平成 4 年 3 月に大学院の修士課程を終了し、日本建築総合試験所という建築関連の試験や審査を行う財団法人(現在は一般財団法人)に就職して 23 年となります。千里山建築会との関わりは大学院生の頃からですが、就職した会社が吹田市にあり比較的関西大学に近いこともあって、卒業後も引き続き千里山建築会の幹事として活動を手伝っております。

今年度、私が企画した行事が「関西大学高槻キャンパスの見学と富田界隈の酒蔵・寺社散策」です。文化財が数多く残る摂津富田界隈を散策した後関西大学高槻キャンパスへ行き、馬術部の方に馬場を案内してもらい、次世代のフィギアスケート界を担うであろう子供達が練習しているアイスアリーナを見学させて頂きました。最後はお酒を酌み交わして卒業生の交流を深め、大変楽しい一日となりました。今後もこのような企画を立案し、ご案内したいと思います。

五十近い年齢となりましたが、気持ちは大学を卒業した頃とあまり変わったとも思えず、自分では人間として成長したようにも思いません。それでも、気がつけば社会的に責任ある立場に立っており、あらゆる面で責任の重さを痛感する日々です。そのように年を重ねて行く中で最近嬉しく思うことは、関西大学建築学科を卒業された方々と重要な場面で仕事をする機会が本当に増えたことです。このような仕事は当然大変なのですが、やりがいがあり楽しさがあります。それだけに、わが母校である関西大学建築学科には、今更ながら感謝の気持ちでいっぱいです。

できる範囲で在学生や卒業生のためにできることをして、母校に恩返ししたいと思っておりますが、その 1 つが千里山建築会での活動だと考えています。会員の皆様のご協力をいただき、本会がより良くなるように努めていきますので、今後ともよろしくお祈りします。



散策後の懇親会の様子

## 建築学科の近況

教室だより 建築学科 教育主任 伊藤淳志 (7期)

早いもので、昨年の4月に建築学科の教育主任を仰せつかってから1年経とうとしています。光陰矢の如しと申しますが、歳を重ねる毎に1年が短くなっていくように感じられます。ともあれ、大過なく学科運営が出来たのも偏に建築学科の先生方のご協力のお陰と感謝しております。

さて、今年度は昨年4月に133名の学部新生を迎え入れました。高校数学・理科の学習指導要領が改訂された後の最初の入学試験ということが影響したのかどうかは不明ですが、予想定着率を大きく上回る結果となりました。これに対して、大学院の新生は17名と例年よりも多少少なくなっています。なお、本年3月の学部卒業生は99名、修士修了生は29名の見込みで、学部卒業生総数は5,375名となります。関西大学は本年11月4日に創立130周年を迎えますが、わが建築学科は2017年3月末をもって満50年となります。来年4月には盛大な記念式典が予定されていますので、卒業生の皆さん方には奮って参加くださいますようお願いいたします。

キャンパス内の様子を少しお話ししておきます。昭和35年に村野藤吾設計で建てられた第4学舎(元工学部、現理工系3学部の学舎)2号館(教室棟および研究棟)は竣工後55年が経ち、建替えは見送られたものの、本年度耐震改修が行われて、見る方向によっては残念な?景観となっています。また、1号館(事務室他の棟)も、まもなく耐震改修工事が始まり、増築も含めて来年の春に竣工の予定です。さらに、2号館の中庭では、4階建ての4号館(教室棟)の新築工事が、本年4月からの供用に向けて進められています。その他として、図書館の東側には、4階建ての関西大学イノベーション創生センターの建築が進行し

ており、さらに、阪急関大前駅北口を出て直ぐの所から社会学部学舎の方向に直結するエスカレーターも備えたアクセス通路が建設されています。4月3日(日)のスプリングフェスティバルには、花見がてら変わりゆく千里山キャンパスの様子をぜひ観に来てください。もちろん、別途案内の千里山建築会の懇親会にも参加をお願いいたします。

次に、学科の人事関係を申し上げますと、まず、一昨年の9月に退職されました計画系の末包伸吾教授の後任として、2015年4月に大影佳史教授が着任されました。詳細はご本人の挨拶に代えることとしますが、建築学科の更なる発展のためにご活躍いただけるものと期待しております。また、原直也先生が平成27年4月に教授に昇任されました。一方で、鈴木三四郎教授が本年3月をもちまして定年退職となります。鈴木先生は昭和48年に着任以来、43年の長きに渡り建築学科および工学部のためにご尽力されました。来年度も非常勤講師としてお勤めいただきますが、ひとまず、大変お疲れ様でしたと感謝申し上げます。

最後に、同窓会幹事として最近の同窓会活動の状況をお話いたします。同窓会では第9代北野幹夫会長のもと、定例会の会報発行やスプリングフェスティバル懇親会の他、まちあるきイベントや学生向けの就活支援プログラムなど、精力的な活動が行われています。ただ、卒業生の多くの方への情報伝達に困難を極めているのが現状です。ホームページの整備も検討されていますが、この会報が唯一の情報発信源になっています。皆様には、お知り合いの卒業生の方々に同窓会活動への積極的な参加を勧誘していただくようお願いしまして、締めくくりの言葉とさせていただきます。



4号館新築工事中の写真 (2016.2.20 撮影)



4号館竣工写真 (2016.3.7 撮影)



大影佳史 教授

2015年4月に着任いたしました大影と申します。

出身校は京都大学で、建築学専攻博士後期課程進学後、1998年から同専攻で助手を5年間勤め、2003年より前任校の名城大学工学部環境創造学科にて勤務いたしました。京都大学では建築計画・設計に関わる研究や、キャンパス計画を担当させて頂き、京都大学総合博物館(南館)の設計等も担当させて頂きました。その後、名城大学では、授業科目としては居住環境設計、都市環境設計など

主に設計科目を担当し、研究・教育においては建築、都市景観、屋外公共空間など人間の生活環境を対象に、学生とともに出来るだけまちのフィールドに出て、調査・分析や、実践的な計画・設計プロジェクトを行ってきました。(たとえば、愛知万博での市民参加型基盤プロジェクト(竹シエルト計画および制作)、堀川や久屋大通についてのフィールド調査を含めた将来像提案、冒険遊び場の調査や小屋づくりなど) これまでは、主なテーマとして、景観の様相変化、都市の文化的活動と仮設的環境、こどもの遊び環境などに取り組んできましたが、これからも、環境を自然と人間の関係や時間的な観点から捉え直すことから、新たな環境デザインや建築設計の理論の検証・構築、そして実践的活動に取り組んで行きたいと考えています。

この度、関西大学にて勤めさせて頂くこととなりましたが、これまでの経験を活かしながら、また、新たな勉強に努めながら、関西大学建築学科の魅力・社会的な存在感を高め発展させていくことに貢献できればと存じます。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

昭和43年(1968年)、一年の浪人後、関西大学工学部建築学科に2期生として入学しました。受験生にとって、建築といえば、設計で素晴らしいデザインすることに夢を描くのは当然であり、これは当時も今日も同じはずです。前年の昭和42年、工学部に3学科が増設され、その一つが建築学科であり、開設当時の構成教員は計画系5名(内2名が女性の副手)だったことから、先の考えと合致します。1期生が4年次の時には、現在の教員数にほぼ達していました。

入学後、教養の科目と専門の科目があり、当時卒業までに驚異的な174単位必要で、選択科目も少なく、配当科目の殆どが必須科目のような状況で、非常にタイトでした。また、全国的に学生運動の余波がまだ本学にはあり、文系の学部はもちろん、工学部では建築学科では依然として燻っており、当然授業にも影響を与えていました。

昭和48年、副手として採用され、これが大学教員生活の始まりです。学生生活4年、教員生活43年の計47年であり、ほぼ半世紀に亘り大学で生活したことになります。この間、学科の教員にも入れ替わりがあり、その変遷の一部を、写真と共にご紹介しましょう。写真1は、昭和51年の夏のソフトボール大会の時で、この頃の娯楽の一つでした。

写真2は昭和53年頃の教室旅行時です。同年には、宮



写真1 昭和51年暑中ソフトボール大会



写真2 教室旅行(昭和53年頃、左端が菅田先生)

城県沖地震の被害調査を実施し、勉強になりました。

昭和60年度(1985)、国内研究員制度により、1年間の留学機会を得、東京大学地震研究所、第6部震災予防の教授大澤胖先生のところへ在籍しました。大澤先生は、耐震壁のご研究以外に、強震観測の必要性和そのデータの蓄積が重要と言われ、伊豆半島周辺に非常に密な観測網の計画・実行され、多くの大学院生がそれに関わり、得られたデータを利用して、各種の研究の指導をされていました。私もその時期、非常に多くの強震動波形を手に入れ、また観測点の見学などさせて頂き、強震観測の重要性を知りました。更に、東京大学の大澤先生が主査、岡田先生、南先

生、秋山先生、大井先生には副査として、学位論文の審査をして頂き、工学博士を授与させて頂きました。特に、南先生には、終始懇切丁寧なご教授を頂きました。

写真3は、昭和59年の教室旅行時のものです。



写真3 教室旅行（昭和59年）

平成元年、工業技術研究所内に、「防災工学研究会」が立ち上がり、防災に関する科学・技術に関する必要性を認識するために、高槻キャンパスに強震計を設置しました。その後、千里山キャンパスのRC造、S造、免震建物にも設置し、常時観測をしています。

写真4は、平成3年の教室旅行時のものです。



写真4 教室旅行（平成3年）

平成5年度（1993）、在外研究員制度を利用して米国プリンストン大学に1年間留学しました。そこで、Memphisの地盤構造の情報を得、その条件を取り入れた確率論的な増幅率をまとめました。

1994年、米国ノースリッジ地震時に、Los Angelesで大被害がありました。翌平成7年（1995）、1月に三陸はるか沖地震、兵庫県南部地震が立て続けに発生し、特に阪

神・淡路地域が甚大な被害に見舞われました。東京大学の工藤先生から、神戸にて余震観測に相応しい場所の要請があり、神戸市の長田地域でほぼ南北の余震観測と、観測点周りの建物被害調査をすることになりました。その結果、兵庫県南部地震による建物被害と地盤条件の関係を明らかにし、その被害の実態から、建物の破壊過程に注目し、以後の実在建物の震動台実験へと結び付くことになりました。

写真5は平成21年の教室旅行時のものです。



写真5 教室旅行（平成21年）

木造に関しては、兵庫県南部地震後に京都大学防災研究所教授の鈴木祥之先生代表の日本建築学会近畿支部の木造研究会に属し、その研究活動の中で、「伝統構法木造建物の耐震性を検証する」を目的に、兵庫県三木市の震動台実験の機会を得、特にその建物の崩壊過程について研究活動を行いました。この前後の時期に体調を崩し、2回の脳動脈の手術を受け、関係者の方に随分迷惑を掛けてしまいましたが、現在は完治し、健康状態は至って良好です。

以上のように、地震動の強さの尺度として、建物側からの崩壊、被害などを検討して参りました。この間、多くの先生方、先輩、後輩、学生諸君に出会い、支えられました。お蔭で、この40数年間の大学生活を無事全うすることが出来ました。長い間、お世話になり、ありがとうございました。皆様方のご健康と今後益々のご発展をお祈りしております。

（平成28年3月）

## 関西大学建築学科 50周年 2016年4月、50期生が入学します！

卒業生のみなさんへ

建築学科は、工学部の1学科として1967年の4月に設立され、同時に1期生が入学しました。以来、2016年4月には50期生が入学するという、所謂50周年に対応します。この間、学部再編成で、現在は環境都市工学部に属していますが、学科の名称は変わらず、1学科として存続しています。

そこで、建築学科では、これを機会に、2017年の春（4月？）に「関西大学建築学科50周年記念行事」を開催する予定にしております。内容については、目下検討中です

が、記念講演、祝賀会、記念誌発行などを考えています。それに先立ち、2016年度中には、在学生と卒業生を対象としたアイデア・コンペを企画中です。ご期待ください。

詳細などは、決定次第、順次お知らせします。ご協力・ご支援よろしく申し上げます。

関西大学建築学科50周年記念行事実行委員会  
委員長 鈴木三四郎

現在関西大学では創立 130 周年記念事業として、様々な取組みを行っております。今回はその中でも記念事業の 1 番に掲げられている「千里山キャンパスに新たなアクセス・エリアの創出」という事業についてご紹介いたします。



千里山新アクセス整備工事 完成イメージ

創立 130 周年記念事業の一環として整備する「千里山新アクセス整備工事」については、キャンパスへの新しい玄関口として、阪急関大前駅北口の東側に、大学への新たなメイン通路を平成 28 年 8 月末に開設予定です。エスカレーターや憩いの広場を設け、植樹により緑のキャンパス空間をスマートに演出するなど、学生や地域住民の皆様の利便性・快適性を高め、安全・安心で人にやさしいアプローチを造成します。この新たなアクセス・エリアの創出により、更なる社会連携の推進や地域貢献活動への寄与など、地域と学園が共に発展できるような「まちづくりの推進」にも取り組んでいきます。



千里山新アクセス整備工事 配置図

[経緯]

平成 25 年 9 月から平成 27 年 8 月にかけて、名神高速道路沿いの敷地、約 4,200㎡を取得完了いたしました。これは、関大前駅の北口から第 3 学舎（社会学部）の西側に直通する最短ルートとなる敷地です。私も 20 数年前、通学していた頃、阪急関大前駅北口の階段を上って、「このまままっすぐ行けたらなぁ」と思ったことがありました。

[設計]

大学側の設計のポイントは以下の通りです。

- ・将来建物を建設する余地を残し、通路を設置する
- ・気持ちのいいアプローチを演出する
- ・近隣に配慮する
- ・蜂須賀桜を 130 本植樹する

関西大学の経営理念と、管財局キャンパスデザイン室の方針に沿って、現在も詳細を詰めているところです。



関大前駅北口から見た様子

第 3 学舎前のアクセス経路

[近隣と関西大学]

大学としては、朝の通学時の関大前通りの混雑の解消という大きな課題を抱えています。朝のピーク 10 時台で約 1,300 名（1 日の歩行者数：約 8,500 人）が一気に大学生門に向かって通学いたします。これは近隣にお住まいの方々に大変迷惑をかけ、また学生も、車との接触等、危険な状態に置かれている状況でした。一方で、敷地取得の最中に、一部の新聞で、「駅と大学 直通路?」「学生通り「店つぶれる」」といった記事が掲載されました。大学前通りが寂れる、との懸念は理解できますし、通りの風景に思い出多い卒業生もいらっしやいます。不安を払拭しようと、みんなで考えるまちづくりの仕掛けを行いました。

[まち・かん 1 1 4 (いいよ)]

関大前通りの中ほどに、関大前ラボラトリ「まち・かん 1 1 4」（住所：千里山東 1-14-2 から 114 を語呂合わせ）というコミュニティスペースを設置し、近隣住民、商店会店主、学生、教職員その他の交流を促進しております。運営は、理工系学部・社会学部・政策創造学部が共同して、学生が主体的に行い、

- ・近隣住民の有志による絵画教室
- ・映画研究部上映会
- ・近隣住民からの工事への質問の対応と取次ぎ
- ・休日の大学行事の近隣への発信
- ・アンケート、目安箱設置による意識調査

などの活動をしています。

ぜひ <https://www.facebook.com/kanmaepj?fref=ts> をご覧ください。2 週間に 1 回程度、大学・行政・近隣自治体その他が参加するミーティングを持ち、よりよいまちづくりのための協議を行っております。関大前通りの雰囲気やダイレクトに伝わってきますので、大学運営業務に非常に役立っております。

最後に、このような記念事業実施のために、ご寄付を募っています！ 関西大学のホームページのトップから「創立 130 周年記念事業特設サイト」をクリックしていただくと案内があります。ご協力よろしくお願ひします。

## 会計報告

平成 26 年度 (2014/4/1 ~ 2015/3/31)

収入の部		支出の部	
繰越金	¥1,503,441	総会・懇親会費	¥532,024
総会会費	¥1,580,290	名簿 CD 代	¥259,200
銀行利息	¥2	総会資料印刷料・発送料	¥429,565
郵便局利子	¥839	名簿発送料	¥20,582
新規会員入会費	¥90,000	卒業記念写真代 (25 年度)	¥82,000
		卒業記念写真代 (26 年度)	¥84,400
		写真発送料	¥6,314
		謝金	¥38,000
		弔電	¥4,049
		小計	¥1,456,134
		繰越金	¥1,718,438
合計	¥3,174,572	合計	¥3,174,572

## 繰越金明細

郵便普通預金	¥1,657,957
りそな普通預金	¥11,450
現金	¥49,031
合計	¥1,718,438

## 事業報告

平成 26 年度 (2014/4/1 ~ 2015/3/31)

4 月 8 日	第 1 回幹事会開催
4 月 29 日	第 9 回総会・懇親会開催
7 月 12 日	第 2 回幹事会開催
11 月 15 日	夕陽丘七坂まちあるきおよび第 3 回幹事会開催
12 月 20 日	第 4 回幹事会開催
12 月 20 日	会報第 25 号発行
	名簿 CD と共に、会費納入者に発送
3 月 20 日	卒業式にて新会員勧誘、卒業写真撮影

なお、会報、名簿の各担当者は随時各委員会を開催



## 《お知らせ》

## 1. 一昨年に実施しました夕陽丘七坂まちあるきを、今年秋に内容をバージョンアップし再度行います。

上町台地に位置する夕陽丘は、お寺や神社が集積し傾斜地が多かったため緑と坂道が開発されず残り、昔から夕陽が美しく見える場として多くの文学に登場するなど有名です。そして、変化に富んだ七坂を巡ると都心とは思えない風情と魅せられる景観に出会うことができます。現在 NHK の大河ドラマ「真田丸」が放映中ですが、夕陽丘は真田幸村が討死した場所であり多くの物語が残っています。特製まちあるきマップを用意しますので、ぜひご参加ください。実施日時などは、千里山建築会ホームページに広報する予定です。

## 2. ご連絡先が変わった場合のお願い

会員の皆様をご卒業後、住所変更や職場の異動等でご連絡先が変わった場合、千里山建築会までご一報いただくと助かります。宜しく申し上げます。



生國魂神社北門(生玉真言坂) 桃山時代建立の多宝塔

## 3. 千里山建築会のホームページについて

卒業生への情報発信や相互の交流を図るため、千里山建築会ホームページの充実が望まれています。なかなか進んでおりません。が、なんとか今年度中にはリニューアルし、使いやすいものになりたいと考えています。従来の HP から住所変更等の連絡は可能です。新しい HP にご期待いただくと同時に暫定的にご利用ください。

URL : <http://www.arch.kansai-u.ac.jp/senri2003/>

(会長：北野)



## 《編集後記》

ようやく春の風が吹きだし、会報の編集も何とか終わることができました。ご執筆いただきました皆さま、ありがとうございました。平成 28 年、関西大学は創立 130 周年を迎え、同時に建築学科も 50 周年を迎えます。会報で紹介のあった新アクセス整備工事、第 4 学舎 4 号館新築工事だけでなく、イノベーション創生センター建設工事、北グラウンド(野球場)改修工事など、昨年に引き続いて、千里山キャンパスはめまぐるしく成長し続けます。母校が変わり行くことは少し寂しい気持ちにもなりますが、母校に負けないよう、今年一年、実りある成長の年としたいと思います。(坂口)